

# 小規模校、小中併置校だからこそできること

## ～「問寒別学校」としての取組～

幌延町立問寒別小中学校

### 1 研究主題について

#### 「自ら学びを創造する子の育成」～個別最適な学び・協働的な学びを通して～

本校では、学習に向かう児童の学習状況を適切に把握し、個に応じた必要な支援を重ねている。小学校では、複式学級という学級編成上、本校では欠かせない「自力タイム」を、課題や見通しを児童と共有することで主体的な取組としている。また、協働的な学習経験を提供することにより、考えを深めさせる学習活動の充実を図っている。互いの考えを尊重し合う協力的な学習経験を提供し、より深い学びを生み出す。中学校でも、生徒と教師が単元計画を共有することにより、生徒に単元のゴールまでの道筋（解決方法）の見通しをもたせ、自分に合った解決方法で取り組む学習活動の充実を図っている。生徒が見通しをもてる、目的意識をもつことができるための適切なアプローチ方法を検討し、生徒の中で学習が前と後でつながっていくよう支援していく。

### 2 初任教員の授業実践力向上に向けた全校によるサポートと学び合い

新卒を受け入れた学校は「育てる」責任がある。本校の新卒は中学校国語教諭である。研究部と連携し、2学期研修の大きな柱を「新卒教員の研究授業づくり」とした。11月の学校経営指導訪問は、全学級を代表して学校研究授業として中学校国語科の授業参観をお願いし、学校研究授業に向け、中学校部会を中心に、研究部も積極的に関りながら授業実践力向上に向け取組を進めてきた。研究授業は説明文教材ということで、小中の系統性を視野に、同じ説明文教材で小学校1・2年、同3・4年(同5・6年は欠学)の研究授業を提案し、全校で学び合った。また、新卒教員による模擬授業による学び合い等、全校でサポートを行った。



### 3 各学級の取り組み状況を把握する取組の実施とサポート体制づくり

小学校では、4月中は、複式1・2年学級においての1年生の初期指導を担当がより丁寧に行えるよう、2年生の国語と算数の授業を管理職が受け持った。また、各種テストや日常の見取り等、学習支援が必要な場合は、学年の実態に応じた「学び合い」の活用や、必要に応じて養教や中学校教員、管理職による複数での支援、単元によっては単式化を図るなどのサポート体制をつくり、より個に応じた指導体制の充実を図った。

### 他 ICT……Meet で終業式(12/23 暴風雪のため臨休)

